

パーキンソン病に関連した 幻覚や妄想について理解する

幻覚や妄想はパーキンソン病の一つの側面ですか？

幻覚 (実際には存在していないものを見たり聞いたり経験したりする) や **妄想** (真実ではないことを信じてしまう) は、パーキンソン病の非運動症状です。これらはどちらも **パーキンソン病の精神症状** として知られています。パーキンソン病をかかえている人の約半数は、病気の経過中に幻覚や妄想を経験する可能性があります。

このような幻覚や妄想の原因は何ですか？

現在、パーキンソン病に関連した幻覚や妄想の正確な原因ははっきりとは分かっていません。ただし、**特定の脳内化学物質と受容体 (ドーパミンやセロトニンなど) が何らかの役割を果たしていると考えられています**。一般に、こうした症状は以下のいずれか1つによって引き起こされると考えられています。

ドーパミン作動薬による副作用

幻覚や妄想は一般的なパーキンソン病のお薬 (ドーパミン作動薬と呼ばれます) の副作用である場合があります。これらのお薬は脳内のドーパミン濃度を上昇させ、パーキンソン病患者さんの運動症状を改善するのに役立ちます。ただし、ドーパミン濃度の上昇は、幻覚や妄想につながる変化を引き起こす可能性もあります。

パーキンソン病の自然経過

幻覚や妄想は、ドーパミン濃度を上昇させるお薬を服用しているかどうかとは無関係に、パーキンソン病の自然経過の中で生じる脳内の変化がきっかけとなる可能性があります。

これらの症状を発症するリスクがあるのはどんな人ですか？

どのパーキンソン病患者さんが幻覚や妄想を発症するかを、確実に予測する方法はありません。**多くのリスク因子が、こうした症状に関連しています**。このようなリスク因子の一部には、年齢、パーキンソン病の期間と重症度、ドーパミン濃度を上昇させるお薬の服用などがあります。

患者さんは幻覚や妄想をどのように説明しますか？

これらの症状について説明するとき、次のような一般的な言葉を使う場合があります。



ものが見える

他の人には見えない人、動物、物などが見える



妄想症

他人が自分について話したり、自分が持っているお金を取ろうとしていると思ってしまう



誤った思い込み

家族が自分から盗んだり自分を裏切ったりするのではないかと不安になる



現実が理解できない

何が現実で何が想像か区別できない

パーキンソン病の幻覚や妄想があまり認識されていないのはなぜですか？

パーキンソン病の精神症状を伴う人が自分たちの体験について黙ったままでは珍しいことではありません。実際に、**80~90%の患者さんが、幻覚や妄想のことを担当医師に話そうとしないのです。**この症状についての認識を高めるための取り組みが引き続き行われています。パーキンソン病に関連した非運動症状に関する詳細は、以下のいずれかの組織から入手できます。



apdaparkinson.org



davisphinneyfoundation.org



michaeljfox.org



parkinson.org

支援を得るにはどうしたらいいですか？

まず、最も重要なことは、幻覚や妄想といった症状を自覚した場合に**正直に話してください**。担当の医師や治療スタッフにご自分のパーキンソン病の症状のすべてを話すことは必要不可欠な行動です。患者、介護者、医師の間で交わされる会話は、あなたの症状を効果的に管理するための重要な要素です。

あなたのあらゆる症状について、そして治療の選択肢を含め、あなたを支援するために何ができるかについて、担当医師に必ず相談してください。